

物質フロー革新研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	3つのプロジェクトが物質フローのライフサイクルに適合した体系的な構成となり、GHG削減や国や自治体への行政支援がうまくはめ込まれて、全体としてたいへんすっきりとした研究計画となっている。明確な目標に向けて努力し、今年度も素晴らしい成果が上がっていることを高く評価する。	物質フローに対する3つの切り口で構成するプログラムに対してご評価いただきありがとうございます。いただいたコメントを励みにして、設定した目標の達成に向けて着実に計画を進めながらも新しいアイデアを付加して、今後も有益な成果を出していきます。
	特筆すべき研究成果が得られているが、特にカーボンフットプリント（CF）可視化アプリの開発は、個人の意識が重要な時代において社会への大きな貢献が期待される。今後需要が高まることが想定できる。その他にも、アニメなども活用するアウトリーチも高く評価する。	CF可視化アプリは、公開から約3ヶ月間で既に2000件以上のアクセス数、朝日新聞・朝日小学生新聞などへの掲載がありますが、さらなる普及のためにはステークホルダーとの連携が鍵と考えております。オープンソースとして公開した機能とデータを自治体の脱炭素施策や企業サービスに組み込んでいただく等の戦略的な連携を進めます。
	不適切な水銀貿易検出手法の開発やマイクロプラスチックの濃度測定、PFASの含有・放出調査など、現下の問題と直結する興味深い研究が多い。	人為起源の水銀排出や流通については環境リスク・健康領域や社会システム領域と連携し環境省推進費（SII-6）を推進しています。また、将来の排出シナリオについては、包括的環境リスク研究PGのPJ4での全球シミュレーションに基づくメチル水銀摂取量の長期予測における入力データとして活用されています。
今後への期待など	セメント・コンクリートについては、メッセージをいかに伝えるか、業界との対話、連携・協働が今後益々重要になっていくだろう。供給を減らした際の代替案についての共同研究や、別途業界以外に供給を減らすための働きかけを行うなど、様々な戦略から脱炭素の実現を検討すると良い。	本プログラムではTheory of Changeを設定しており、研究成果の社会への作用プロセスを検討しています。物質効率向上のためには素材産業以外のステークホルダーとの協働が必要であり、製造業や金融業との連携・情報提供を試みています。提示したシナリオの実行に関する取り組みを、今後も力を入れて進めます。